

特に断らなければ $\mathbf{u} := \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2$ とし、関数やベクトル場は全て C^∞ 級のものとする。ベクトルは縦横のどちらで書いても差し支えない。 $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ で表される向きをついた曲線に対し、 $l(t)$ における単位法ベクトルを $\mathbf{n}(t)$ で表すものとする。

1. (1) \mathbb{R}^3 のベクトル $\mathbf{a} := \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\mathbf{b} := \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ 4 \end{pmatrix}$, $\mathbf{c} := \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 9 \end{pmatrix}$ に対し、 $\mathbf{a} \times \mathbf{b}$ を計算せよ。また、 $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$ が張る平行六面体の体積を求めよ。

(2) \mathbb{R}^2 上の関数 $f(\mathbf{u}) := \log(1 + |\mathbf{u}|^2)$ に対し、 $\text{grad}(f)(\mathbf{u}) = \mathbf{0}$ となる $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2$ を全て求めよ。

(3) \mathbb{R}^2 上のベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} xy^2 - 4xy + 4x - y \\ x^2y - 2xy + 2x + y \end{pmatrix}$ に対し、 $(\text{div}\mathbf{V})(\mathbf{u}) = 0$ となる $\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2$ を全て求めよ。

(4) \mathbb{R}^2 上の関数 $g: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$ に対し、 $\text{rot}(\text{grad}(g))$ を計算せよ。計算過程も分かるようにせよ。

(5) \mathbb{R}^2 上の関数 $h: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$ とベクトル場 $\mathbf{V}: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$ に対し、 $\text{div}(h\mathbf{V}) = \text{grad}(h) \cdot \mathbf{V} + h \text{div}\mathbf{V}$ を示せ。

2. \mathbb{R}^2 上のベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} 3x^2 - y \\ -3y^2 - x \end{pmatrix}$, $\mathbf{W}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} 3x^2 - y \\ -3y^2 + x \end{pmatrix}$ を考える。

(1) $\text{div}\mathbf{V}, \text{rot}\mathbf{V}, \text{div}\mathbf{W}, \text{rot}\mathbf{W}$ を求めよ。(答のみでよい)

(2) 関数 $f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$ で $\text{grad}(f) = \mathbf{V}$ をみたすものは存在するか? 存在するならば f を一つ求め、存在しないならばそのことを証明せよ。

(3) 曲線のパラメータ $l: [0, \pi] \rightarrow \mathbb{R}^2$, $l(t) := \begin{pmatrix} \cos t \\ \sin t \end{pmatrix}$ と $m: [-1, 1] \rightarrow \mathbb{R}^2$, $m(t) := \begin{pmatrix} -t \\ 0 \end{pmatrix}$ に対し、 $\int_l \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ と $\int_m \mathbf{V} \cdot d\mathbf{m}$ を計算せよ。

(4) (3) の l, m に対し、 $\int_l \mathbf{W} \cdot d\mathbf{l}$ と $\int_m \mathbf{W} \cdot d\mathbf{m}$ を計算せよ。

(5) 関数 $g: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}$ で $\text{grad}(g) = \mathbf{W}$ をみたすものは存在するか? 存在するならば g を一つ求め、存在しないならばそのことを証明せよ。

3. 直線 $x + y = 1$ と x 軸, y 軸で囲まれる有界領域を Ω とし、 $L := \partial\Omega$ とおく。

(1) L を表す区分的に正則なパラメータ $l: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^2$ で、周期的かつ Ω の境界の向きを表すものを一つ与えよ。

(2) (1) で求めた l と、ベクトル場 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := e^{x^2 - y^2} \begin{pmatrix} -x \\ y \end{pmatrix}$ に対し、 $\int_l \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ を計算せよ。ただし (1) の l の周期を T とするとき、 $\int_l \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ の積分区間は $[0, T]$ である。

(3) (1) で求めた l と、ベクトル場 $\mathbf{W}(\mathbf{u}) := \begin{pmatrix} x^7 + x^6y - 3x^5y^2 + x^4y^3 - 5x^3y^4 - 6x^2y^5 - x \\ y - 3x^5y^2 + 5x^4y^3 - x^3y^4 + 3x^2y^5 + 2xy^6 + 7y^7 \end{pmatrix}$ に対し、 $\int_l \mathbf{W} \cdot \mathbf{n} d\mathbf{l}$ を計算せよ。積分区間については (2) と同様である。

4. $\Omega := \mathbb{R}^2 \setminus \{\mathbf{0}\}$ とし、 $\mathbf{V}(\mathbf{u}) := \frac{1}{4x^2 + y^2} \begin{pmatrix} -y \\ x \end{pmatrix}$ を Ω 上のベクトル場とする。

(1) $\text{div}\mathbf{V}, \text{rot}\mathbf{V}$ を求めよ。計算過程も分かるようにせよ。

(2) 周期的な正則パラメータ $l: \mathbb{R} \rightarrow \Omega$ で表される曲線 $L = l(\mathbb{R})$ が

$$L \cap \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^2 \mid x > 0, y = 0\} = \{l(0)\}, \quad \frac{dl}{dt}(0) = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

をみたし、 l が囲む領域の境界の向きを表すとする。 $\int_l \mathbf{V} \cdot d\mathbf{l}$ を求めよ。